

# 真心 明るく 正しく

みどりヶ丘  
病院  
広報誌

# vol.09

2016 第9号

私たちは真心の医療と福祉を通じて、地域の人々に貢献します

祐生会の基本方針

私たちは地域に密着し安心して医療・福祉を受けられる病院・福祉施設を目指します。そのために次に掲げる項目に取り組めます。

1. 地域の人々から信頼され安全で質の高い医療体制の構築と真心の医療サービスの提供
2. 地域連携の充実による地域完結型の医療サービスの提供
3. 高齢化時代に対応するための福祉施設の充実と真心の福祉サービスの提供
4. 予防医療に対する健診・指導の充実と 地域健康教育活動の充実
5. 受診される皆様の権利の尊重

## 救急科

### 「救急科」 発足について

みどりヶ丘病院  
副院長 西植 隆



当院は、開設以来救急医療に積極的に取り組んで参りました。また、救急車の受入数が一定以上あり、社会医療法人に認定されています。

現在も医師、看護師、診療放射線技師、事務職員など多くの職員が365日24時間体制で救急に対応しています。

ところで、高槻市内には救急患者に対応する病院がいくつもあり、積極的に救急車を受け入れていきます。また、救急隊にも救急救命士が多くなりました。このような中で救急医療に関して病院のレベルアップが望まれています。

そこで、この度「救急科」を発足し救急対応を一つの部署としてまとめる事となりました。目的は、まずソフト(人的)レベルアップ。そして将来的にはハード(救急室と検査機器)の拡充を目指します。

「痛くて動けない」、「苦しむ」、「出血が止まらない」、こんな時に頼れるのは救急車と救急病院です。

みどりヶ丘病院救急科は、「私たちは真心の医療と福祉を通じて、地域の人々に貢献します。」という当院の理念のもとに地域の人々に頼られるよう努力していきます。

## 医師紹介

### 医師紹介

本年度より4名の医師が着任いたしました。今後医療体制をより一層充実していきますので、宜しくお願いします。



リハビリテーション科  
土田 直樹  
(つちだ なおき)



消化器内科  
能田 貞治  
(のうだ さだはる)



整形外科  
石橋 秀信  
(いしばし ひでのぶ)



整形外科  
部長 木戸 健介  
(きど けんすけ)

看護部

認定看護師の紹介



本年度も認定看護師が2名増えました。「感染管理認定看護師」と「脳卒中リハビリテーション看護認定看護師」を取得したそれぞれの職員よりコメントをもらいました。

感染管理認定看護師

是澤 陽子

感染に関する知識や技術の向上を目指し、6ヶ月間感染管理分野を学んできました。「現場と一緒に考え現場と一緒に行動すること」をモットーに活動しています。ICTメンバーはじめリンクナースやスタッフ等、多くの人に支えられながら日々の活動が出来ていることを実感しています。

変化する医療の現状を察知し、患者さまや職員はもちろん、地域の方々が安心して暮らせる感染管理を実施することが私の役割と考えています。新しい情報を入れ、日々知識や技術の向上に努め、活用されるべき人材となれるよう、一歩一歩確実に歩んでいきたいと思えます。これからも宜しくお願ひします。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

長友 聡美

認定看護師には、看護実践を通しての役割モデルや他職種との協働、急性期から維持期において一貫した計画的回復支援があります。現在の活動として、病棟単位で毎月勉強会の開催を実施しています。まずは所属している病棟の知識の底上げし看護の質をさらに向上させていきたいと思えます。今後は病院全体で勉強会の実施を行い、少しでも学んだ事を伝達していきます。

また、色々な部署(特に回復期病棟やリハビリテーション科)との連携をさらに強化していきたいと考えています。認定看護師の活動には職員の協力が不可欠です。至らない所もありますが、宜しくお願ひします。

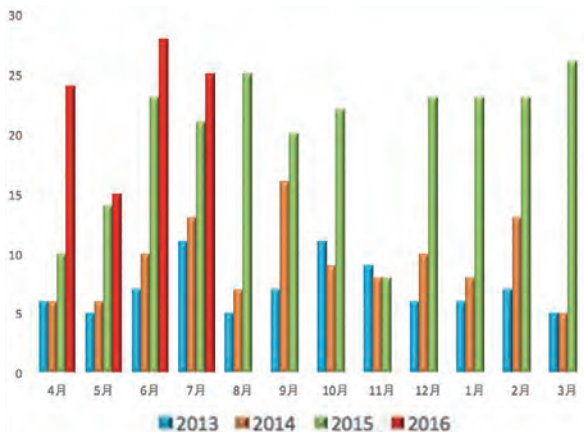
脊椎脊髄外科センター

脊椎脊髄外科センターの近況  
—手術件数および取り組み—

みどりヶ丘病院 脊椎脊髄外科センター  
部長 成田 渉  
センター長 長谷 斉

〈はじめに〉

平成24年1月に、当院の長谷 斉センター長により先端的な医療機器と専門スタッフを揃えて脊椎脊髄外科センターが開設されました。平成27年4月から成田 渉が着任し、最小侵襲脊椎安定術 (minimally invasive spine stabilization: MIST、ミスト)の積極的な取り組みを



次のページへ

始めました。今春で本センター開設から5周年が経過し、この間に高槻市内をはじめとして、他府県の病院や診療所から多くの紹介を受けています。手術症例は本センター開設以来500例を超え、平成27年以降はX L I F (Extreme Lateral Interbody Fusion)を中心としたMISTが著明に増加し、この一年間の手術件数は約250例となりました。

みどりヶ丘病院では、患者さまや地域の方々に向けた「糖尿病教室」等の教室を開いたり、定期的にイベントも行っていきます。ご案内は、病院内掲示板でのポスターやホームページの「教室カレンダー」に詳細を掲載しておりますので、関心をお持ちの方は是非ご参加ください。詳しいお問合せは、病院(072-681-5717)までご連絡ください。

### 〈本センターの取り組み〉

診察では、神経学的所見、日  
整会腰痛スコア・腰痛自己評  
価(VAS)などを用いて症状  
を把握し、解像能の高いX線、  
MRI、CTなどを用いて的確  
な診断をめざしています。

治療の基本は保存療法であ  
り、日常生活指導、薬物療法、  
運動療法(マッケンジー療法な  
ど)を行います。手術は安全で  
低侵襲な術式が大切です。小  
さな手術創で、重要な筋肉・韌  
帯・関節を温存し、確実に圧迫  
をとることで、術中出血や創  
部痛を最小限に抑え、翌日か  
ら座位・立位・歩行などの早期  
リハビリが可能となります。

明るく拡大された視野の高  
性能顕微鏡手術を中心に、内  
視鏡手術や低侵襲の脊椎固定  
術を行います。近年注目されて  
いる低侵襲固定術が  
「MISst」です。

### 〈MISst(ミススト)〉

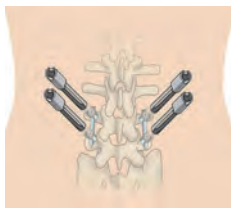
腰椎が前後にずれる「腰椎  
変性すべり症」や、背骨が左右  
に曲がる「側弯症」は、老化や  
外部からの強い衝撃で腰椎が

ずれてしまうことで、中を通る  
神経が圧迫されて腰痛や下肢  
のしびれなどを発症します。こ  
れらの疾患は、発症すると激し  
い痛みを伴うことが多く、日常  
生活の質(QOL)の急激な低  
下をもたらします。

大きな切開を伴う従来の手  
術治療では、患部の骨にスク  
リューを入れて背骨を矯正し  
ますが、従来の手術方法では  
背中側から大きく切開する必  
要がありました。筋肉や軟部  
組織を傷つけますので、術後の  
回復期間が長くなります。この  
従来の手術方法である、「大き  
な切開によるデメリット」を改  
善するために考案されたのが、  
MISstです。後述する  
「X-LIF」もMISstの一部  
です。

合併症などで大きく切開を  
行うことができない患者さん  
にも、MISstなら出血量も  
少なく、体への少ない負担で手  
術を行うことができます。傷口  
が小さいため、感染症を起こす  
リスクも低減でき、従来の手術  
法での感染症発生率を下げる

ことができるようになりまし  
た。また、翌日からの歩行訓練  
も可能となり、傷口が癒える  
までの期間の入院日数も少な  
くなります。



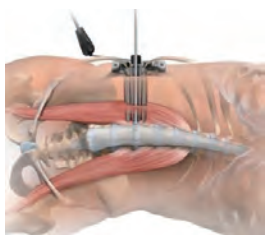
### 〈X-LIF(エックスライフ)〉

X-LIFとは、損傷してい  
る椎間板を取り除き、骨を器  
具で固定して、脊椎の安定性  
を高める手術方法です。神経  
を直接触らないため、脊柱管  
内の神経に対し安全性が高  
く、さらには出血が従来に比べ  
常に少なく、体への負担が少な  
い手術方法です。日本では  
2013年から承認され実施  
されています。

背部に3cmの切開が2カ  
所と側腹部に約3cmの皮膚  
切開(皮切)で手術を実施しま  
す。この手技の最大の利点は神  
経を直接触らないで神経を圧  
迫から解除する事にあります。

側腹部に約3cmの皮切から  
内視鏡を設置して、脊髄モニ  
タリングにて神経を避けなが  
ら椎間板内に人工骨を移植し  
ます。その後、背部の皮切から  
固定術を行います。

対象となる疾患は、腰椎変  
性すべり症、腰椎変性側弯症、  
腰椎後弯症、腰椎分離(すべ  
り)症などです。原則、手術翌  
日より起立・歩行を開始しま  
す。入院期間は最短で約7日  
程度ですが、病態により異なり  
ます。また手術後は硬いコル  
セットを装着します。



X-LIFは全国でも限られ  
た医師と医療機関でのみ実施  
されており、米国でX-LIF  
専用の手術研修を受けて認定  
医となる必要があります。また  
手術には安全性確保のため、  
X-LIF専用の脊髄神経機能

のモニタリング装置が必要で  
す。我々はX-LIFを日本導  
入早期から開始しており手術  
の安全性向上のため様々な取  
り組みも行っています。現在ま  
で約200以上の実績があり  
ます。



### 〈おわりに〉

本センターでは、今後も脊  
椎・脊髄の外傷や疾患を積極  
的に診断・治療をしていきま  
す。まず保存療法を優先させ、  
症状の持続や進行があれば、患  
者さんの年齢、仕事、将来の生  
活内容を考慮し、タイミングを  
失わずに、安全で確実な手術を  
して行きたいと考えています。



脊椎脊髄外科センター  
部長 成田 渉

## 脳卒中 リハビリテーション — 6か月の壁 —

院長 新井 基弘



先日、深夜に再放送されていた「ためして ガッテン」という番組が、当院での脳卒中リハビリテーションと共通した内容でしたので、少し紹介したいと思います。

脳出血、脳梗塞、くも膜下出血、これらの脳卒中の後遺症による麻痺は、発症直後ならリハビリテーションによって、腕や足などの機能がどんどん回復します。当院では脳卒中の発症後、早い時期からリハビリを開始して、回復期間とされている6か月が来るまで精一杯の機能回復を目指します。

しかし、この6か月を過ぎる頃になると、麻痺の改善がピタッと止まってしまいます。これを「6か月の壁」と呼ばれています。

理由。それは何だと思いませんか？ダメージを受けた脳は回復しないから？

確かに壊死(えし)した脳の神経細胞は二度とよみがえりません。しかし、周りの神経細胞がどんどん伸び、新しいネットワークを作ります。運動の指令を出す脳の機能は、発症から6か月を過ぎて速度は落ちますが、全く改善しなくなるわけではありません。

改善しない麻痺が理由。それは何だと思いませんか？ダメージを受けた脳は回復しないから？

確かに壊死(えし)した脳の神経細胞は二度とよみがえりません。しかし、周りの神経細胞がどんどん伸び、新しいネットワークを作ります。運動の指令を出す脳の機能は、発症から6か月を過ぎて速度は落ちますが、全く改善しなくなるわけではありません。

それでは、元凶は何なのか？実は「反射」なのです。「熱い！」とか「痛い！」とか刺激を感じた瞬間に腕を縮めますよね。あの状態がまさに麻痺患者さんたちに起こっているのです。ただし、熱さや痛みを感じているわけではなく、筋肉の伸び過ぎを感知するセンサー「筋紡錘(きんぼうすい)」が引き起こす反射です。筋肉は伸びすぎると傷めてしまいますから、いつも筋紡錘が見張っていて、必要なら「危ない！縮めて！」と信号を出します。

しかし、脳卒中になると脳からのコントロールが効かなくなり、筋紡錘が故障してしまいます。つまり過敏になった筋紡錘は常に「縮めて！」と信号を出し続けるようになります。やがて腕の筋肉は縮まり、硬くこわばり、動かしくなくなってしまうのです。手足を動かす練習さえできれば新しい神経回路がつながるチャンスはあるのに、その大事な神経の中を「縮めて！」の信号が暴走して邪魔していたのです。

今まではこの「6か月の壁」を越えて麻痺を改善させる方法はありませんでした。しかし、近年当院でも、この6か月の壁を崩そうとしています。リハビリテーション科の医師、療法士が取り組んでいる治療を、次回紹介させていただきます。

編集後記

### 広報委員会より

今年はオリンピックイヤーで、世界中が熱く盛り上がっていますね。次は東京です。今のほとんどの選手は科学的なデータに基づいてトレーニングしています。4年後には今よりもすごい記録が出ているかも知れません。記録や結果も大切ですが、競技を通して躍動する人間の美しさがオリンピックだと思います。次回、日本で選手たちの美しい姿が見られるのが楽しみです。

### 関連施設の紹介

社会医療法人 祐生会	みどりヶ丘訪問看護ステーション サテライト柱本	高槻市西真上1丁目35番17号 高槻市柱本1丁目1番8号	TEL072-681-5605 TEL072-668-5522
	みどりヶ丘ケアプランセンター	高槻市西真上1丁目35番17号	TEL072-681-5794
	みどりヶ丘ケアプランセンターつかはら	高槻市塚原4丁目7番1号	TEL072-697-0037
	みどりヶ丘介護老人保健施設	高槻市奈佐原4丁目7番1号	TEL072-692-3111
	グループホームみどりヶ丘荘	高槻市奈佐原4丁目7番1号	TEL072-692-3287
	みどりヶ丘デイサービスセンター川西	高槻市川西町1丁目33番12号	TEL072-686-3451
社会福祉法人 みどりヶ丘会	グリーン特別養護老人ホーム	高槻市奈佐原4丁目7番15号	TEL072-690-3331
	グリーンケアハウス	高槻市奈佐原4丁目7番3号	TEL072-690-3561